

中学受験、偏差値「50」の意味 模試ごとに異なる水準 くらしの数字考

2023/6/10 5:00 | 日本経済新聞 電子版



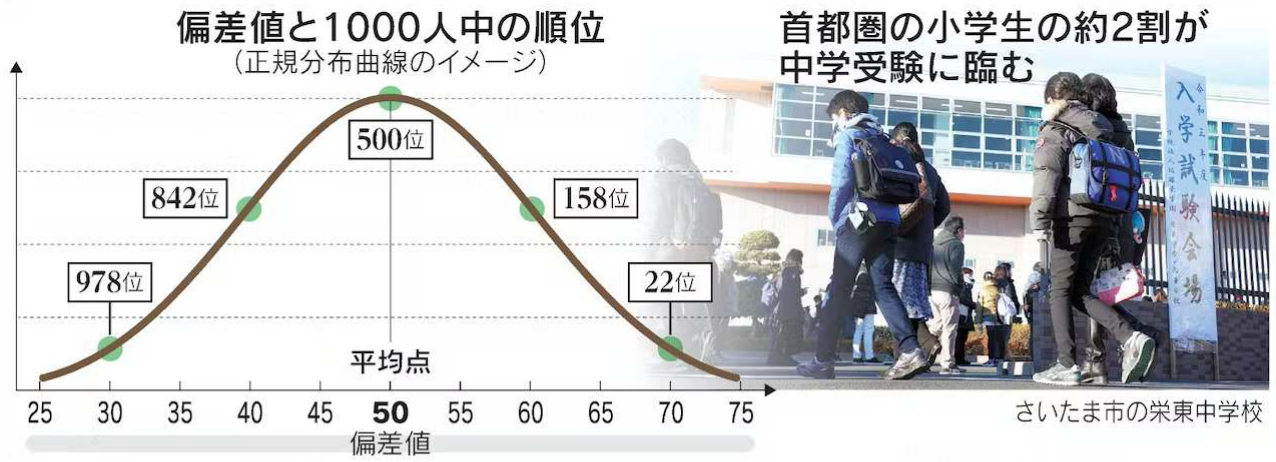
ピクスタ提供

首都圏や関西を中心に都市部で中学受験熱が高まっている。受験にはつきものの「偏差値」だが、平均である偏差値50には固有の特徴がいくつかあるようだ。実像に迫った。

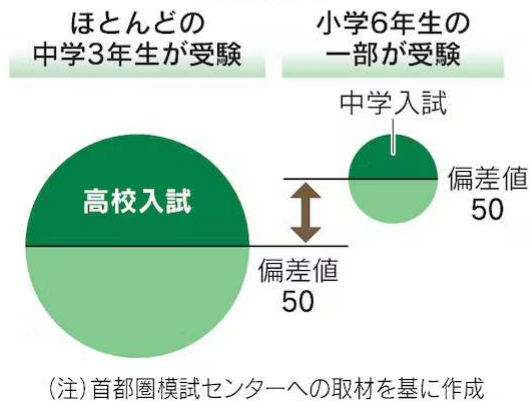
偏差値とは？

「パパは偏差値70台だったぞ」「偏差値がまだ低いからもっと勉強を頑張るって」——。中学受験が熱を帯びるなか、ついこんなセリフを子どもに言う保護者もいるのでは。

偏差値はテストの全受験者の中で自分が平均からどれくらいの学力にあるのかを確認できる。あるテスト結果について平均点を50に変換し、点数のバラツキ度合いを加味して算出する。平均点付近の人数が最多で0点や100点に近づくほど少なくなり、グラフで表すと左右対称の釣り鐘型になる「正規分布」になると想定する。



中学と高校入試の偏差値はこう違う



入試日によって偏差値は異なる

偏差値	2月1日	2月2日	2月3日	2月4日	2月5日
65					本郷③
64		本郷②			
63					
62					
61					
60	本郷①			城北③	
59		城北②			
58					
57		鎌倉学園②		鎌倉学園③	
56	城北①				
55					
54					
53					
52	鎌倉学園①				

(注)日能研全国模試の結果の一覧表(2023年3月発行)を基に作成。①②③はそれぞれ何回目の入試かを示す

高校受験では、一部を除いて中学3年生のほぼ全員が模試を受ける。このため、高校受験で初めて偏差値を意識する人は多いかもしれない。

特殊な中学受験

一方、中学受験は特殊だ。首都圏模試センター(東京・千代田)の北一成さんは「偏差値が同じ50でも、中学受験と高校受験では全く意味が違う」と指摘する。中学を受験する小学生は首都圏では約2割で、母数が限られるためだ。

塾大手SAPIXの広野雅明さんによると、「(受験をするのは)教育熱心な家庭の子どもが多く、学力レベルは一般の小学生の真ん中より上が多い」。そのため、偏差値は高校より中学の方が低くなりやすい。中学受験カウンセラーの安浪京子さんは「中学受験の偏差値40は高校受験の偏差値60くらい」と話す。保護者の高校受験時の偏差値と、目の前の中学受験生の偏差値を比べるのは不適切との声は多い。

中学受験は様々な模試があるため、同じ子どもでも偏差値はバラツキがある。

首都圏では四谷大塚、日能研、SAPIX、首都圏模試センターの模試が「四大模試」と呼ばれ、関西だと浜学園や馬淵教室などの模試がある。受験生の学力レベルが違うため、各模

試の偏差値50も水準が異なる。同じ子どもが受けた場合の偏差値は「首都圏模試と比べ四谷大塚や日能研の模試は4~5ポイント低く出て、SAPIXはさらに低くなる」（北さん）。

個別指導塾テストティー（東京・渋谷）の繁田和貴さんは「ある模試で偏差値40しか取れなくても、別の模試では50を超えることもあり得る。模試の選び方で子どもに自信を持たせる方法もある」と話す。

同じ学校でも偏差値が違う

学校の偏差値も一つではない。中学受験では首都圏・関西とも、子どもが複数校を受験するのが一般的。入試を2回以上設ける学校が増えており、その場合は同じ学校でも入試日によって偏差値が違うことが多い。大半は初回入試が最も低い。2回目以降は学校が定員を絞り込む半面、受験者数は増える傾向にあるためだ。「志望校の入試が複数回あるなら、初回がお薦め」（安浪さん）という。



学習塾で勉強する小学生

少子化の時代、優秀な生徒集めとブランド力の向上のため、「高偏差値」を意識する学校は少なくない。一部では偏差値をあの手この手で高めようとする動きもある。

例えば、入試日程の調整だ。開成中（東京・荒川）など都内の多くの難関校は解禁日の2月1日午前に入試を実施しており、これらと重ならないようにする学校も目立つ。難関校を受けた子どもを呼び込むことで、自校の偏差値の上昇が見込めるためだ。関西でも同様の傾向がある。

コースを細分化する学校もある。同じ学校に「特進」や「特別奨学生」といったコースを設け、定員数を絞り込む。合格のハードルを上げることで、偏差値は高まる。しかし、23年春の入試では「合格者ゼロ」の事例も報告され、インターネット上では受験生の保護者からと見られる悲痛な投稿も相次いだようだ。

偏差値は学力レベルとは関係のない要素も反映されている。日能研の井上修さんは「交通アクセスや学校の広報次第でも偏差値は大きく変わる」と強調する。

思考力・表現力をみる入試も

偏差値一辺倒の入試とは一線を画す中学校も少しずつ増えてきた。

聖和学院中（神奈川県逗子市）は発表と討論、振り返りの作文から成る「ビブリオバトル入試」を実施している。三重中（三重県松阪市）はあるイラストを示し、文章でどのように説明するかを問う。いずれも知識の量ではなく、思考力や表現力をみている。

学校選びでは偏差値以外にも教育内容や理念、環境など、色々な軸がある。3人の子どもを育てた神奈川県鎌倉市在住の母親は「偏差値にとらわれず、3人とも自由な校風で生徒の主体性を大事にする中学校に通わせた」と語る。

保護者はつい偏差値をみて子どもを説教したり、学校を見定めたりしがちだ。子どもの成長のために、どのような教育が望ましいのか。いったん立ち止まって親子で考えてみてほしいかもしれない。

高まる教育熱

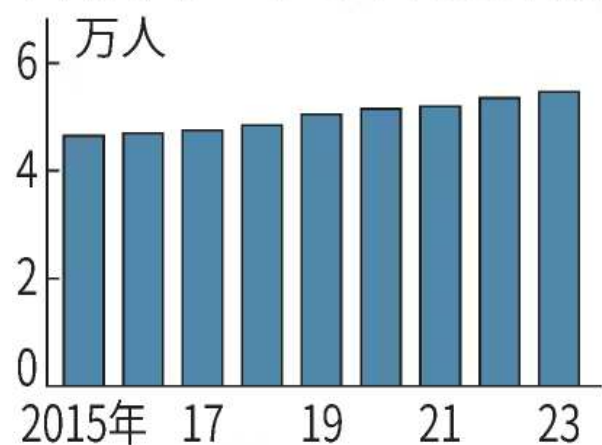
新型コロナウイルス禍を経て、一段と盛り上がる中学受験熱。四谷大塚によると、2023年春の受験者数は約5万4700人、受験率は18.6%といずれも過去最高を更新した。関西圏など他地域を加えると、中学受験生は全国で約10万人に達するという。

四谷大塚の岩崎隆義さんは「夫婦共働きの高収入世帯が増えて、教育熱が一段と高まっている」と指摘する。中学入試に合格すれば高校受験なしで系列校に進学するのが一般的だ。日能研の井上さんは中学受験熱が高まる背景には、中学生の早い時期から大学進学を意識できることもあると分析する。

中学校ではグループワークに使える

空間や、ICT（情報通信技術）環境などを整備する動きが広がっている。生徒が興

首都圏の中学受験者数



(注)四谷大塚調べ

味・関心分野を探求できるようにし、その子に合った大学を見つけられるように後押ししている。

(南優子)

【関連記事】

- [中学受験校、3視点で選ぶ 家庭の価値観や子どもの意見](#)
- [中学入試と親の適性 問題の「遊び心」分かるか](#)
- [中学より高校受験のほうが向いている子は](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.